

一般質問



議員が町政を質す！

第1回定例会では9人の議員が一般質問を行い、2日間にわたり活発な議論を展開しました。質問と答弁を要約した内容は、11ページから15ページです。

質問議員（質問順序）		質問項目	頁
1	渡部正司	1. 町長のリーダーシップについて	P 11
2	五十嵐 一 夫	1. 町長の政治姿勢を問う 2. 東第一地区土地区画整理事業の抜本見直しについて 3. 地区集会所建築に際し、補助を支出していますが、集会所の用地の立地条件をどう考えているのか 4. ゴミ不法投棄対策として、ゴミ集積所に監視カメラの設置を	P 11
3	物江政博	1. 除雪対策について 2. 有害鳥獣対策について 3. 交通行政について	P 12
4	横山智代	1. 「全世代型社会保障改革」に関して 2. 介護保険について 3. 福祉行政について	P 12
5	蓮沼文明	1. 新年度に向けてのB M I 鶴沼球場周辺施設の整備対策事業について 2. 鶴沼緑地公園歩道橋の架け替え修繕工事等について 3. 坂下厚生総合病院の跡地利用について	P 13
6	赤城大地	1. 都市計画、土地利用計画について 2. 最近、球切れした街路灯や防犯灯の交換が遅れているとの声が行政区から多く聞かれるようになった。この原因は発注先を限定していることにあると思われるが、対策を講じる考えはないか	P 13
7	佐藤宗太	1. 福祉行政について 2. 教育行政について 3. 建設行政について	P 14
8	小畑博司	1. コロナ禍の町民のいのちと健康をどう守るか 2. 農業振興で活性化し、楽しい健康的なまちづくりを期待する 3. 安心・安全なまちづくりを推進せよ	P 14
9	目黒克博	1. 町防災のあり方を問う	P 15

一般質問・・・議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針を聞き、疑問点を質すこと。

会津坂下町議会では質問答弁を含めて、1人50分以内としています。



渡部正司 議員

3期へ立候補の意向は

・・・（明確な意向示さず）

問 これまでの首長としての行動（リーダーシップ）をどう評価しているか。また、当町における首長としてのリーダーシップをどのように考えているか。町長の考えや活動の発信をどう考えているか。

答 町長として8年間、町政を担ってまいりました。町長としてのリーダーシップとは、町の進むべき方向を見定め、的確な意思決定のもと、住民にわかりやすく説明をしながら、政策を執行していくことであると考えております。私の考えや町の施策等を町民へ広く発信することは非常に大切なことであり、リーダーシップの重要な要素であると認識しております。毎月の広報誌での「町長のスマイルトーク」や「新型コロナウイルス感染症対策本部からのお知らせ」により私の考えをお伝えしてまいりました。

町民の利便性を向上させるとともに、職員の職場環境を改善することで、より質の高い行政サービスを提供してまいりたいと考えております。コロナ禍における新しい生活様式を具現化し、浸透させ、後世に遺すことで、誰一人取り残すことなく、町民の命と暮らしを守ることが、私の責務であると考えております。



五十嵐一夫 議員

坂下高校と会農高の統合への関わりは

時間をかけ議論すべきと提言

問 私が行った、「坂下高校を大沼高校でなく会農高に統合を」の民意調査の結果、賛成407、反対0でした。

坂下高校と会農高の統合の実現のために町長はどのような行動をしたのか。

答 令和元年7月大沼高校、令和2年1月坂下高校で開催された「改革懇談会」において、慎重かつ時間をかけた議論をすべきであるという発言をしました。

教育長との面談の際は両校の統合の申し入れをしました。

問 町長退職金の不支給・廃止について取り組みをするよう求めます。

答 2期目満了後についても福島県市町村総合事務組合の規定通り手続きを進めます。

区画整理抜本見直しできるのか

大規模な変更は困難

問 地区の中で大きな面積を占める県有地についてどのように扱うのか。

答 令和6年を目途に県に具体的な用途を示す必要があり、活用方針の早期決定に向け、関係各所と協議を進めていきます。



原野化し、土砂の仮置き場の県有地

問 通称原街道を延伸しての、町中直しはあるのか。

答 喜多方街道交差点への接続の見直しはあるのか。65%まで移転が完了している中で、大規模な変更は困難であり、現計画を進めていきます。

これも質問

問 集会所建築の際の立地条件は。用地確保できれば道路整備を考え

問 ゴミ集積所監視カメラ設置支援を。町に3台有り貸与できます。

齋藤町長のスマイルトーク
「梅の花」

厳しかった寒さもあと少しとなりました。暖かな春を思い、もうひと踏み張りといったところです。

寒風の中、梅の花に春の訪れを感じる方も多いと思います。梅は寒さの中にひっそりと咲き、凛とした美しさを感じられます。その花言葉が「気品ある美しさ」というものなはずです。

松竹梅は中国では「厳しい時の三人の友」を指すともいわれ、松は苦しくても根を強くはり忍耐強く真心のある人、竹は苦しい時でも一本筋の通った人、梅は苦しみにも耐えながらもやさしさを忘れない人と言われています。

コロナ禍によりまだ厳しい状況は続きますが、梅の花のようにコロナ終息の春を目指して頑張ります。

広報誌「齋藤町長のスマイルトーク」



物江政博 議員

公共の雪捨て場の開設を求める

開設に向け、検討しています

問 当町に以前あった雪捨て場を廃止した要因は何か、また今後開設する施策はあるか。

答 以前は、県道喜多方会津坂下線八千代橋上流側宮川の一部を雪捨て場として開放していましたが、一般ごみの混入が多く河川環境の悪化を招いたことから、開放を中止しました。今後の雪捨て場の検討については、ばんげひがし公園北側を検討しています。また、使用後の現状復旧作業を実施するため利用者を登録制にする検討もしています。

問 登校時間に間に合う歩道の除雪は可能か。

答 通学路における除雪につきましては、歩道の除雪作業も車道と同じ積雪量15センチメートルの出動基準で通学に支障のないよう出動し、午前7時を目途に完了するよう努めていますが、状況によっては間に合わない場合もあります。



雪の歩道を登校する小学生

有害鳥獣の対策と方針を問う

被害防止に向けた対策を展開

問 令和3年度以降の有害鳥獣の対策と方針を問う。

答 町といたしましては、町、行政区、関係機関が一体となり農業者の電気柵設置に対する新たな補助制度を創設するなど、鳥獣被害の未然防止や、拡大抑制に向けた取り組みを支援してまいります。



横山智代 議員

全世代型社会保障改革をどう捉えるか

町民福祉の向上につながることを期待します

問 75歳以上の窓口2割負担導入による人数と給付費の減少は。

答 現行の1割から2割に引き上げられる対象者は、単身世帯の場合合算年収200万円以上、複数世帯の場合は後期高齢者の年収合計320万円以上の方となっております。令和元年中の収入による試算結果では、当町においては160名の方が対象となり、後期高齢者被保険者の2,999名の5.3%となっております。2割引き上げに対する配慮措置として、長期間受診する方の負担軽減を図るため、負担増加額において月3千円の上限を3年間講ずることとしています。

これも質問

問 総合検診に聴力検査を加えることはできないか。

生活にお困りの方への支援対応は

各支援制度を活用し支援に繋がっております。

問 生活にお困りの方の把握と支援体制はどのようになされているのか。

答 様々な事情により、生活にお困りの方からのご相談が今年度は





蓮沼文明 議員

BMⅠ鶴沼球場のBSO盤への移行実現は

早期に予算を確保し、BSO盤への移行完了に取り組んでまいります

問 長年懸案となっている現在のBMⅠ鶴沼球場のBSO盤について、今や公式大会で世界基準となっているBSO盤への移行工事実現に向けて、町の予定計画を伺う。

答 BMⅠ鶴沼球場のBSO盤改修につきましては、現在、改修内容等について調整を進めており、早期に予算を確保し、BSO盤への移行を完了できるように取り組んでおります。また、施工時期については、高野連等、各種団体との調整をしております。

鶴沼緑地公園歩道橋の早期架け替え修繕は

早期の修繕の実現に向けて、引き続き調査研究をし取り組んでまいります。

問 長年通行止めとなっている鶴沼緑地公園歩道橋については、早急な架け替え工事が望まれるが、新年度に向けて町の取組み方針を伺う。

答 鶴沼緑地公園歩道橋については、老朽化が著しいことから危険防止のため、現在は使用を禁止しておりますが、ばんげひがし公園との往来に

不便をきたしており、公園の景観や安全管理上も望ましくないことから、早期の修繕が必要であると強く認識しております。しかし、修繕には多額の費用が必要であることから、クラウドファンディングなど、様々な手法による民間資金の活用ができないか、現在、調査研究を進めております。早期修繕の実現に向けて引き続き取り組んでまいります。



1日も早い修繕が望まれる
鶴沼緑地公園歩道橋

これも質問

問 坂下厚生総合病院の跡地利用については、会津坂下町民の総合的な民意を反映すべきと考えるが、今後どのようなプロセスを経て最終的な決定に至るのか、町の方針並びに見解を伺う。

問 町民プール及び駐車場トイレについては、町内外企業からのネーミングライツ制度導入も充分可能かと考えるが、町の見解を伺う。



赤城大地 議員

公有・民間施設の跡地利用の計画は

都市計画に合わせて関係機関と協議中です

問 町内において公有施設または大型の民間施設の跡地が散見されるが、これらについて、どのように都市計画または土地利用の計画の中に組み込んでいくのか今後の方針を伺う。

答 本町の都市計画についてはマスタープランにより定めており、用途地域などの地域地区や地区計画、都市計画道路や都市施設などの基本指針や町づくりの方向性を示しております。

しかし、個別の建物等を含めた跡地の活用については都市計画の規制誘導に沿った中で検討していただくようになっており、町としても関係機関と協議、要望、提案してまいります。

問 今後、予見される坂下高等学校の跡地について、どのような利活用方法が考えられるか。

答 会津地方振興局管内において、共通する課題を解決する「会津地域課題解決連携推進会議」が設置されたところではございますが、課題解決の取り組みを実現していくためには、より新しい県と市町村の連携の在り方

が必要と思われます。そのため、統合後の当該跡地について、そのための連携拠点施設とすることも考えられ、今後関係機関と協議してまいります。（その他の施設については表を参照）

場 所	利活用方法
① 中村区旧県営住宅跡地	活用方法を県と協議中
② 旧農業試験場跡地	〃
③ 坂下厚生総合病院※	流入人口の増加を図る利用が考えられる
④ 坂下高等学校	県・市町村との連携拠点施設としての利用が考えられる

③は今後跡地となることが予定されている土地。また全てにおいて跡地利用については第一義的には管理者が決定すべきであると町は認識しています。



佐藤宗太 議員

福祉行政におけるコロナ対策は

迅速に安心してワクチン接種をしていただけるように取り組んでまいります

問 本町のコロナ対策及びワクチン接種計画は。

答 当町におきましては、1月中旬に生活課福祉健康班内に、接種事業推進チームを立ち上げ、現在、高齢者の方々への優先接種の開始に向け、体制構築のために関係機関等と協議を進めております。しかし、ワクチン供給が世界的にひっ迫している影響から、当初予定より遅くなることが国から示されております。

接種計画におきましては、人員体制の整備、システム改修、クーポン券の印刷・郵送、接種会場選定、超低温冷凍庫の配備、物資等の確保、町民のみなさんへの情報提供と相談体制確保などについて、準備工程を含めた計画を策定しており、町内医療機関にご協力いただくとともに、両沼管内町村間で連携し、準備を進めております。

問 基礎疾患によりワクチンを接種できない方やその家族等、医療機関、福祉施設等への支援の考え方は。

答 基礎疾患を有する方は、優先接種対象者とされており、治療



過去の集団健診の様子

これも質問

問 通学路の危険箇所の修繕計画は。

問 脆弱性が懸念されている建物の現状とその耐震強化や建て替えの計画は。



小畑博司 議員

コロナ禍の町民のいのちと健康をどう守るか

誰ひとり取り残すことのないきめ細やかな支援を継続して実施します

問 ステイホーム中心の生活が長引き、新生活様式など人とのつながりが制限される中で、精神的にも肉体的にも疲弊し、健康被害が加速化しているのではないかと。

答 令和2年度生活支援事業においては、「全町民に対する生活支援」や、「商工業者等への支援」など六つの柱を掲げ実施してまいりました。令和3年度につきましては5月をめぐりに実施計画をお示しし、誰ひとり取り残すことのない、きめ細やかな支援を継続して実施していくことで町民のくらしと健康を守ってまいります。

答

令和2年度生活支援事業においては、「全町民に対する生活支援」や、「商工業者等への支援」など六つの柱を掲げ実施してまいりました。令和3年度につきましては5月をめぐりに実施計画をお示しし、誰ひとり取り残すことのない、きめ細やかな支援を継続して実施していくことで町民のくらしと健康を守ってまいります。

答

当町の基幹産業である農業の振興と活性化は、地域経済の活性化や「後継者不足」「米価下落」等により大変厳しい状況が続いております。このような中で市民農園の開園は農作業を通じた交流が生まれ、さらには指導する高齢者の生きがいとなり、健康的なまちづくりにつながるものと考えておりますので、ニーズを把握しながら農業活性化策の一つとして検討してまいります。

問 農業のみならず、少子高齢化は深刻な影響をもたらしており、そこで、後継者のいない農地を活用して、「市民農園を開園する」などの施策によって農地の荒廃を防ぎ、か

これも質問

問 坂下産のコメで防災食・備蓄食を作る。

問 獣害対策・災害対策にドローンを活用せよ。



目黒克博 議員

町防災のあり方について問う

迅速かつ的確な対応に努めてまいります

問 現在の情報伝達方法はどのようなになっているか。

答 町民に災害情報等を確実に伝達する為、一つの手段に頼らず複数の手段を組合せ強化することが重要と考えています。町では防災行政無線、各携帯電話による緊急速報メール、Ｌアラートでのテレビテロップ放送、ヤフー・ジャパンの協定による防災速報などの複数の防災伝達手段で、災害時の対応に備えています。また只見川河川沿いの集落には各戸に受令機の設置と放送を聞き漏らした方には、電話回線を使用して通報の再確認が可能なシステムを追加しております。

問 会津坂下町防災マップの更新について。

答 町防災マップは平成28年2月に作成し全戸配布がなされ5年が経過しました。近年の自然災害は激甚化・頻発化していることや、水防法改正によって想定しうる最大の降雨に対した浸水想定区域見直し、土砂災害危険区域・火山災害警戒区域追加など、令和4年度の改訂を予定しています。

問 防災訓練時の自治会等との連携について。

答 当町の防災訓練は「会津坂下町地域防災計画書」を基本に、対象地域に起こりうる災害を想定し、関係団体・地区住民の方に参加いただいています。各行政区の訓練については「町避難行動計画」の内容を区長・自治会長に事前説明し訓練当日は、住民安否確認・一時避難所の誘導、訓練本部への報告を実施します。災害が発生した際には「会津坂下町避難行動計画書」及び「会津坂下町非常通信対応マニュアル」に基づき、町民の生命・財産を守るため迅速かつ的確な情報収集・発信に努めてまいります。



教えて！議会のことば Part 4



◆請願・陳情

請願と陳情は、要望等を議会に訴える手段という点では同じですが、請願は憲法で保障された国民の基本的権利であり、その方式や処理の手続きなどが定められています。また、請願書を提出する場合、紹介議員が必要です。陳情は紹介議員の必要はありません。

◆閉会中継続審査

会期中に議案などの審査を終了することが困難な場合に、議会の議決によって、会期が終了した閉会後も引き続いて委員会で審査を行うことです。

◆特別委員会

常に設置されている常任委員会に対し、必要のある場合や特定のことを審査するために設置される委員会のことをいいます。当町議会では、予算特別委員会、決算特別委員会、広報広聴特別委員会、議会改革特別委員会、行財政改革検討特別委員会があります。

オンラインによる議員研修開催

令和3年2月19日、関西学院大学大学院経済学研究科人間福祉学部の小西砂千夫教授による「国の第3次補正予算に伴うコロナ対策及び令和3年度の地方交付税」について、ZOOMを使用したオンライン研修を行いました。



みんなのひろば

私は「デルフィニウム」という花を栽培しています。この花は主に結婚式、卒業式などのイベントで業務用として使われます。そのため、昨年の新型コロナウイルスでの緊急事態宣言下で価格の暴落がありました。しかし町担当者の計らいで、補助金の申請にお世話になり大変助かりました。

ワクチン接種で早期に新型コロナウイルスが収束し移動制限がなくなればと思います。会津坂下町ではトルコキキョウ、ストック、ひまわりなどの栽培者が高齢化等で年々減少しております。今後は町や関係機関と連携協力し栽培面積の拡大で出荷量を増やし、多くの花市場に出荷をしてブランド化につなげ、そして会津坂下町も花の一大産地となる事を夢見ています。



稲垣宗平さん
(束原)

花で
まちおこし



私は、すぐ隣の会津若松市から縁あって会津坂下町に嫁いできました。会津坂下町の住民となって40年が過ぎました。国道が拡幅され、宮古橋が新しく架け替えられました。前の橋は幅も今より狭く、トラックやバスなどですれ違うのが恐かったものです。また、基盤整備により農道も整備され、堤防が補強され、川の流れも大きく変わりました。

当時、我が家の茶の間には近所の方々が茶飲み話に花を咲かせていました。今ではすっかり寂しくなっていました。子どもたちが育つころ、いつも賑やかな声が聞こえていましたが、今は、子どもの声が聞こえることは珍しくなっていました。

退職して改めて自分の住んでいる地域をゆっくり眺められるようになりました。いろいろ変化してきた所もありますが、地域のよさや、人のよさを感じながら、これからもここで生活していきたいと思っています。



渡部孝子さん
(村田)

あれから
40年!!

次回定例会のご案内

令和3年第2回定例会は、6月24日(木)から7月2日(金)までの会期(予定)です。
一般質問は6月28日(月)、29日(火)午前10時開会予定です。
傍聴にぜひお越しください。傍聴の際はマスクの着用をお願いいたします。

編集後記

早々とソメイヨシノも葉桜となりましたが、コシアブラなどの山菜が春を魅力的にしています。一方ではコロナの発生によって潜んでいた日本社会の弱さが浮き彫りになり、薄氷を踏むような生活を余儀なくされていた方々の「いのちとくらし」が危機にさらされています。持続可能な社会を実現するための支え合いを実践するとともに、今こそ全議員の総力を結集して、社会の歪みをただしていかねければと強く感じております。

(委員 小畑博司)

広報広聴特別委員会

委員長	青木美貴子
副委員長	横山 智代
委員	目黒 克博
委員	蓮沼 文明
委員	小畑 博司